

関門海峡潮流発電の 取り組み状況は

議員 潮流のスピードが速い関門海峡は、潮流発電の有力な候補地であると考えられる。市は調査に着手しているようだが、その進捗よく状況と今後の取り組みを尋ねる。

また、潮流発電自体が観光素材になるとの思いが、見解を尋ねる。

市長 本市では、22年度から、国の「緑の分権改革推進事業」の選定を受け、関門海峡潮流発電調査事業をスタートさせた。調査では、関門海峡に潮流発電設備を設置した場合年間500万kWh、約1万6000世帯分の電気を賄うことができる。試算結果が得られている。

23年度は、門司区大里地区に最大470Wの小型発電装置を設置し、実際の発電量や発電効率などの試験を行う予定で、現在、実施方法について最終的な調整をしている。

介護サービス利用者 に必要な情報の提供を

議員 区役所で介護保険施設への入所相談をした場合、施設の一覧表が渡されるが、施設の内容や空き状況がわからない。介護サービスを選択しようとする人に必要な情報を提供する仕組みをつくるべきではないか。

保健福祉局長 介護サービス情報は、本市や国のホームページで検索することが可能。また、区役所の窓口で必要な情報を提供しているほか、全世帯に配布している「くらしの便利情報」に主なサービスの内容や施設の一覧表を掲載するなど、市民が介護サービスを選択しやすいよう、情報提供

に努めている。

介護保険施設は判定基準に従って必要性の高い人から優先的に入所できる仕組みとなっているなど、施設の空き状況だけで入所できるものではないが、市民の要望にこたえるため、今後、各施設の待機者数や申込者数などをホームページに掲載するとともに、区役所や地域包括支援センターでわかりやすい情報提供ができるよう工夫していきたい。

アジア低炭素化センター の今後の展開について

議員 環境分野において、「アジア低炭素化センター」の役割は非常に重要であると考えられるが、同センターの今後の活動内容を尋ねる。

また、同センターを中心とした新たなビジネスモデルを構築すべきと考えられるが、見解を尋ねる。

環境局長 アジア低炭素化センターは、アジア地域に本市の環境技術やシステムを輸出し、環境ビジネスを振興するとともに、低炭素化に貢献する拠点として昨年6月に開設した。22年度は、アジア地域の企業や都市のニーズ調査、市内企業との意見交換を行い、その結果、約30件のプロジェクト案件を発掘したところである。

今後は、上下水道の運営ノウハウやリサイクル技術など本市が得意とする環境技術をビジネスとして生かしていきたいと考えており、東田スマートコミュニティや城野ゼロ・カーボン先進街区、北九州エコタウンなど本市の優れた事例をパッケージとして紹介することが、海外へのインフラ輸出の先進的なビジネスモデルになるものと考えている。

松永文庫を活用した 門司港地区の 観光振興を

議員 貴重な映画関連資料が展示されている松永文庫を門司

港地区の中心部に移転し、同地区の観光振興を図ってはどうか。

また、観光客に門司港の歴史を実感してもらえよう、郷土史に関する資料などを常時展示してはどうか。

市長 松永文庫には多くの映画ファンが訪れ、また、海峡トラマシップでの館外企画展や市立文学館での特別企画展でも多くの来場者を集めるなど、同文庫の収蔵資料には、幅広い年代の人を魅了する力がある。

収蔵資料が相当数に及び、展示や収蔵のために一定のスペースを必要とすることから、移転することは予定しておらず、松永文庫の集客力を活用し、商店街と松永文庫とを結び回遊コースを形成することを考えている。

また、今年4月に発定した有志による「松永文庫友の会」など市民の知恵や力をかりるとともに、郷土資料なども展示に生かすことで松永文庫の魅力を上向きに、門司港地区の観光振興を図ってほしい。

内部障害者への支援 について

議員 心臓や呼吸器などに障害がある内部障害者は、外見で障害がわかりにくいいため、電車やバスに優先席があっても、利用しづらいとの声がある。本市では公共交通機関などにハート・プラスマークが導入されているが、内部障害者に同じマークのバッジを身に付けてもらうなどの取り組みを行うべきではないか。

保健福祉局長 ハート・プラスマークについては、市のホームページや障害者の福祉ガイド、小学生用の福祉ボランティア教育用副読本等においてマークと内部障害者の説明を掲載するとともに、市内バスやモノレールの優先席にマークを掲示するなどの取り組みを行っている。

周囲に認識してもらえよう、マークを表示したバッジを身に付けることについて、内部障害者団体からは概ね

肯定的な意見が寄せられている。今後は関係団体と十分協議をしながら、バッジの導入などを含め、多くの市民にハート・プラスマークを認識してもらえる方法を検討していきたい。



ハート・プラスマーク

東部地域への特別支援 学校整備の方向性は

議員 本市の特別支援学校の児童生徒数の推移を見ると、東部地域への特別支援学校の整備は喫緊の課題であると考えられる。

平成23年度に行う東部地域における特別支援学校の整備に関する調査事業の内容や方向性を尋ねる。

教育長 調査の方向性としては、知的障害に対応できる学校の単なる新設ではなく、東部地域全体の中で、既存の特別支援学校の機能を大きく見直し、学校の機能拡大や福祉、医療、労働との連携強化につながるような美のある体制を検討したい。

そのため、今回の調査では、総合化した特別支援学校のあり方やセンター

的機能の拠点となる学校のあり方などの「機能分担」や、新設、移転を含めた各学校の配置のあり方など「適正配置」に関して具体的に調査・検討を進める。

今後は、学校・保護者・地域など、関係者の意見を丁寧に聞き、理解を得ながら、できるだけ早く対応し、市全体の特別支援教育の水準の向上につながるよう努力していきたい。

平成23年度における 私立幼稚園への助成の 内容は

議員 本市では、幼稚園児の97%以上が私立幼稚園に通っており、幼児教育における私立幼稚園の役割は非常に大きい。平成23年度に実

施予定の「私立幼稚園における幼児教育の充実と子育て支援事業」では、私立幼稚園にどのような支援を行うのか。本事業は、AEDの取得費用の一部助成や園庭芝生化のモデル事業を実施するものである。

すべての私立幼稚園にAEDの設置を促進することで、園児の生命を守るだけでなく、幼稚園を利用する保護者をはじめ、市民の安全・安心にもつながるものと考えている。

また、元気な子供たちを育成するため、園庭芝生化のモデル事業を行う4園に対して費用の助成を行い、芝生化の効果进行研究していきたい。

今後とも私立幼稚園連盟などのニーズも把握しながら、幼児教育の充実と子育て支援の拡充に積極的に取り組んでいきたい。

市議会の虚礼廃止にご理解を!

— 公職選挙法では、次のようなことが禁止されています。 —

- 議員や後援会が寄付をしたり有料のあいさつ広告を出すこと
- 議員や後援会が儀礼的な祝儀、香典、供花を出すこと
- 議員や後援会がお中元やお歳暮をすること
- 議員が暑中見舞いや年賀状などのあいさつ状を出すこと（自筆の答礼は除く）
- 市民や団体が議員に寄付などを求めること

このほか市議会では、祝電、弔電の自粛を申し合わせています。市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

可決した意見書・決議

- 市議会では、市政や市民の皆さんの生活にかかわりの深い事柄について改善を求める等のため、意見書の国等への提出や決議を行っています。
- 今定例会では、17件の意見書・決議が提出され、うち11件を可決しました。その件名をご紹介します。
- 震災からの復興に向けた補正予算の早期編成と成立を求める意見書
 - 福島第一原子力発電所の事故の一刻も早い収束と原因究明を求める意見書
 - 東日本大震災の復興支援と総合的な復興ビジョン策定を求める意見書
 - 住宅エコポイントの再延長及び住宅リフォームポイントの創設を求める意見書
 - 公立学校施設における防災機能の向上を求める意見書
 - 当面の電力需給対策に関する意見書
 - 福島第一原子力発電所事故による避難者の支援等に関する意見書
 - 肺炎球菌ワクチンへの公費助成に関する意見書
 - 少人数学級の推進を求める意見書
 - 東日本大震災の救援に関する決議
 - 住宅リフォーム助成制度の創設を求める決議

請願・陳情の審議結果

- 陳情「北九州市立吉野保育所の給食調理業務の民間委託の撤回について」
〈不採択〉
- このほか請願30件、陳情82件が継続審査になりました。